

# 技術者教育の歩みを知る産業遺産

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第024号
名称（型式等）	直立ボール盤
所在地	千葉市中央区今井町 1478
設立（製造）年	大正4(1915)年(直立ボール盤)

## 選定理由

千葉市中央区にある千葉県立千葉工業高等学校の正面玄関には「質量ともに豊富な人材を供給し我が国の産業近代化を支えた技術者教育の歩みを物語る近代化産業遺産群」として平成20(2008)年に経済産業省「近代化産業遺産」に認定された直立ボール盤が展示されています。

直立ボール盤とはドリルを取り付ける主軸が床面に垂直になった穴あけ用の工作機械で、卓上で使う小型のものから、床に据え付ける大型のものまであります。生徒の実習用に使用されていたもので、長い間使われていない状態でした。平成19(2007)年頃、生徒が「課題研究」で、当時の状態へ復元することに取り組み、現在の姿に復元することができたものです。

大正4(1915)年に米国・イリノイ州で製造されたもので、アメリカの Rockford Drilling Machine 社製で自動送り装置の付いた、高さ約190センチの直立ボール盤であり、動力部分はアメリカの FULLER&JOHNSON 社で大正13(1924)年に製造され、水冷式で排気量は3400cc、9馬力の動力用エンジンです。

当時の最先端の機械であり、急速な産業近代化を支える技術者育成のための教育が工業高校で行われていたことが推察されます。



写真1：ドリル部銘板



写真2：エンジン部銘板



写真3：直立ボール盤と動力部

資料協力:千葉県立千葉工業高等学校